

韓半島平和のための南北仏教交流の成果と 宗教界へ捧げる提言

ヨンダム大宗師 大韓仏教 曹溪宗総務院長、仏教放送理事長
民主平和統一諮問会の宗教人道支援分化委員長

1, 南北仏教交流史 概観

南北の対立と葛藤を解消し、仏の教えに従って民族の和合と平和の統一浄土を実現するために、南北仏教が本格的に交流を開始してより12年の歳月が過ぎました。

それまで大韓仏教曹溪宗(以下 曹溪宗)は、北朝鮮の金剛山神溪寺の仏舎復元をはじめとする南北仏教交流、対北人道的支援、北朝鮮査察についての研究調査、南北共同行事推進等を通じて、できる限りの最善の努力を傾け民族の和合と南北仏教の同質感回復のための土台を設けてまいりました。

南北仏教交流史を時代的に区分してみますと、

- ① 1945年の解放から1970年代までの断絶時期
 - ② 1980年代初頭から1995年までの在野・進歩統一運動との連帯活動を通じた模索時期
 - ③ 1995年から1990年代末までの交流時期
 - ④ 2000年から現在に至るまでの曹溪宗の本格参加と交流拡大時期
- に大別することができます。

そして南北仏教交流の内容を区分してみますと、

- ① 宗教・文化的交流事業
- ② 人道的支援事業

に大きく分けることができます。

南北仏教交流史におきまして 1995 年はとても重要な意味を持つ年になります。1995 年から北が積極的に南の宗教団体と統一団体へ水害被害状況を知らせ、助けを請うたのが契機となり、南側仏教界の対北支援事業が開始され、更に北側の接点窓口が海外同胞関連の機関において朝鮮仏教徒連盟として一元化すると共に、交流が多様化、活性化されることになったからです。

2. 宗教・文化的交流事業の現況

南北仏教交流は 1991 年、米国ロサンゼルスにて最初の会合を持ち、一時中断して 1995 年に再び交流を再開しましたが、韓半島の政治・軍事的状況が思わしくなく、非定期的な交流に留まらざるを得ませんでした。しかし 1990 年代末から南の曹溪宗と北の朝鮮仏教徒連盟間の直接交流が可能になりながら、お彼岸奉祝南北共同発願文採択と共に、南北同時奉祝法会を毎年開催し、大韓民国の仏教界が北朝鮮の水害被害支援に積極的に参与することで、相互信頼を築くと同時に、金剛山観光をはじめとして様々な仏教団体の訪北が実現する中で、南北仏教の交流の幅が拡充し、内容も充実しはじめてまいりました。

更に 2000 年、6・15 南北頂上会談を契機に政府と民間次元の交流が同時に活発化し、曹溪宗では南北交流を専門担当する組織が新しく設けられ、人的交流が活発になり、南北仏教界は共感帯と信頼関係を更に確固たるものと致しました。

そして 2000 年代中盤から南北仏教交流は断絶された民族文化の異質感を解消し、伝統文化を復元・継承する上で大きな前進を果たしました。金剛山神溪寺と開城の靈通寺の復元、丹青仏舎作業(韓国仏舎特有の模様のパイント)、海外に略奪・搬出された民族文化財の還収事業のための協力などがその代表的な例になります。

また、仏教の最大行事であるお彼岸奉祝行事は 1997 年からソウル曹溪寺と平壤普賢寺にて同時奉祝法会と共同発願文採択の方式で南北が共に奉行しており、今年は特別に統合曹溪宗団出帆 50 周年の年を迎え、ソウル奉祝法会にて北朝鮮仏教徒連盟を招待したのですが、北朝鮮仏教徒連盟から「現情勢下では実現不可能である」と通知が来て実現致しませんでした。

[図 1] 曹溪宗の仏教交流現況

交流形式と場所	交流背景	交流類型	交流意義
南北仏教徒合同法会 (1991年, 米国)	基督教の交流推進に 歩調を合わせる	合同法会と連席会議	解放後の最初の会合
1次南北仏教会議 (1995年, 中国)	1991年の最初の会 合以来、中断された 交流再開	実務代表者間のコンタ クト	交流再開と実務代表 者間の最初のコンタ クト
2次南北仏教会議 (1997年, 中国)	人道的支援事業協 議	実務代表者間協力事業 協議	南北共同発願文の 公式採択
3次南北仏教会議 (2002年, 中国)	南北頂上会談による 南北交流の活性化	実務代表者間協力事業 協議	神溪寺復元、丹青 仏舎作業合意
3・1節 民族大会 (2003年, ソウル)	北朝鮮宗教界のソウ ル訪問	合同法会と打鐘式	北朝鮮 仏教界初の 大韓民国 訪問
丹青仏舎 代表会議 (2003年, 平壤)	協力事業具体化	協力事業実行案につい て最初の合意	北朝鮮査察に対す る最初の 支援(丹 青)
南北仏教代表者会議 (2004年, 金剛山)	金剛山神溪寺 復元協議	神溪寺 共同復元合意	解放後初 共同事業
6・15 民族大祝典 (2005年, 平壤)	南北共同行事	総務院長開幕演説	解放後初曹溪宗 代表 訪北
북관대첩비 인도식 (2006年, 開城)	還収した 海外搬出 文化財の譲渡	事業成果の評価および 共有	南北共同の初海外 搬出文化財還収事 業
神溪寺 落成法会 (2007年, 金剛山)	最初の南北共同 査 察復元事業	落成法会	最初の南北共同査 察復元事業 完了
6・16 民族大祝典 (2007年, 平壤)	南北共同行事	総務院長祝辞演説	解放以後 2 回目 曹溪宗代表 訪北

10・4 南北頂上会談 (2007年, 平壤)	大韓民国政府 参加要請	総務院長 宗教分野に ついでの 演説	解放後 3 回目 曹溪宗代表 訪北
海外搬出文化 財 還収事業 (2008年, 2009年 平壤)	日帝強占期 海外搬出文化財 還収運動 展開	南北共同協議	北朝鮮から公式 委 任状受領
神溪寺落成 2 周年 行事 (2009年, 金剛山)	年例行事	記念法会	朝鮮仏教徒連盟に て主管
曹溪宗代表 訪北 (2010年, 平壤)	北朝鮮 民族和解協 議会から招請	交流協力事業, 記念法会等 合意	解放後 4 回目 曹溪宗 代表 訪北
神溪寺 落成 3 周年 行事 (2010年, 金剛山)	年例行事	記念法会	
曹溪宗代表 訪北 (2011年, 平壤)	北朝鮮 民族和解協 議会から 招請	法会儀式の標準化, 訳 経事業 共同推進 提 案, 合同法会	天安艦 沈没事件に よる南政府の '5・24 制裁' 措置 後 民 間レベルの初訪北
神溪寺落成 4 周年 行事 (2011年, 金剛山)	年例行事	記念法会	
金正日国防委員長 哀悼文発表 (2011年, ソウル)	金正日国防委員長 崩御	曹溪宗名義	
お彼岸共同奉祝行事 (1997年~2012年)	1995年 南北仏教会 議で議題として想定, 1997年から施行	同時奉祝法会, 共同発願文 採択	

3. 人道的 支援事業 現況

対北 人道的 支援事業が 曹溪宗団レベルで実行されたことは 1997年からです。

北朝鮮 朝鮮仏教徒連盟は 1994 年と 1995 年相次いで発生した 北朝鮮地域の干ばつと洪水被害 状況を 南の仏教界に知らせてきました。これに 対し、仏教界を含む南側の宗教界は 1995 年 10 月に ‘北朝鮮受災民救援 汎宗団推進委員会’を 結成し、大韓民国国民に 北朝鮮受災民救援のための 国民的関心と支援を訴える一方、募金活動を開始致しました。このような雰囲気の中で仏教界も韓国仏教宗団協議会をはじめとする仏教界 団体らが ‘北の同胞救援仏教推進委員会’を 創立し、曹溪宗と共同で ‘北の同胞救援一つの命を生かす 100 日決死法会’を全国の査察に拡大奉公する等 北朝鮮の受災民救援に積極参与致しました。

それまでの対北 人道的 支援は 主に 食料と 生活必需品, 医薬品 支援を 中心に なされ、2000 年に入って査察と仏教団体らの個別支援も活発化してまいりました。詳細な内容につきまして [図 2]を通してご紹介させていただきます。

[図 2] 大韓仏教界の対北人道的支援現況(1997 年~2007 年)

年度	支援内訳
1997 年	<ul style="list-style-type: none"> ・とうもろこし 2,000トン 大韓赤十字社を通じて支援 ・とうもろこし 2,000トン 朝鮮仏教徒連盟を受託者と指定して支援 ・医薬品, 粉乳 3 億ウォン分量 統一団体を 通じて支援
1998 年	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品 購入費募金運動に 参加, 5,000 万ウォン 寄付 ・とうもろこし植え事業に 1 千万ウォン寄付 ・小麦粉 1,250 トン(3 億 7 千万ウォン) 朝鮮仏教徒連盟を受託者と指定して支援
1999 年	<ul style="list-style-type: none"> ・冬用品 3 コンテナ分量(1 億ウォン) 朝鮮仏教徒連盟を受託者に指定して支援
2000 年	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類、5,479 点、食用油 300 トン(2 千万ウォン) 支援 ・朝鮮仏教徒連盟に 乗用車 支援(600 万ウォン) ・肥料 430 トン(1 億ウォン) 支援 ・生活用品 200 セット, 冬用コート 524 着, 下着 100 着, 靴 150 足, 布団 100 組(2 千万ウォン) 支援 ・毛布, 冬用コート(3 千万ウォン) 支援
2001 年	<ul style="list-style-type: none"> ・毛布 900 枚, 冬用コート 1,575 着(5 千万ウォン) 支援 ・小麦粉 17 トン, 食用油(1.8 リットル用) 6,480 缶(4 千万ウォン) 支援 ・下着, タオル, 靴下 等 11 の生活用品(6 千万ウォン) 支援

2002年	<ul style="list-style-type: none"> ・KEDO クムホ地区 法堂設立支援(1千万ウォン) ・ユン・イサン音楽研究所 打楽器 173個(1億2千万ウォン) 支援 ・冬用コート, 下着, 靴下, 洗面道具 等 生活用品(1億3千万ウォン) 支援
2003年	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回丹青仏舎支援金 丹青顔料および材料 15トン(6千500万ウォン) 支援 ・金泥寫經法華經屏風 および 食用油 支援(1億4千万ウォン) ・冬用コート, 下着, 歯磨き粉, タオル 等 生活用品(1億ウォン) 支援
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回 丹青仏舎支援金 丹青顔料 15トン(3千300万ウォン) 支援 ・リョンチョン爆発事故救護物品 小麦粉, ラーメン, 食用油, 毛布, 生活用品 等 支援(1億1,300万ウォン) ・下着, タオル, 靴下 等 生活用品(1億6千万ウォン) 支援 ・第3回 丹青仏舎支援金 粉末顔料 10トン(2千万ウォン) 支援
2005年	<ul style="list-style-type: none"> ・食用油(1.8リットル用) 5,820缶(2千万ウォン) 支援 ・苗代用 ビニール膜 200トン(3億3千万ウォン) 支援 ・第4回丹青仏舎支援金 額上品目 5トン(2千万ウォン), 生活用品(3千万ウォン) 支援 ・朝鮮仏教徒連盟 事務室用ハウスコンテナ 2台, 小麦粉 2コンテナ 支援(2千700万ウォン) ・生活用品(3億ウォン), 朝鮮仏教徒連盟 事務室 仕切り(200m) 支援
2006年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活用品(5億2千万ウォン) 支援 ・水害支援物品 小麦粉 51トン, ラーメン 76,000個, 食用油 9トン, 支援(9千万ウォン) ・第5回 丹青仏舎支援金 白色ペイント 16トン(2千万ウォン) 支援 ・朝鮮仏教徒連盟に 乗用車, トラック 支援(4,500万ウォン)
2007年	<ul style="list-style-type: none"> ・水害支援物品 小麦粉 85トン, 食用油 15,129リットル, ラーメン 1,700箱 支援(1億3千万ウォン)
2008年	韓半島緊張高潮により大韓民国政府から対北人道的支援の統制

4. 宗教界に捧げる韓半島平和統一のための提言

まず最初に南の宗教人たちが対北人道的支援に対してどのような考えなのかを紹介させていただきます。

去年の4月12日に南の宗教指導者らが一同に会し、対北人道的支援再開 呼訴文を発表したことがありました。呼訴文の内容が南の宗教人たちの立場を的確に反映されているようですので一部内容を紹介させていただきたいと思います。

“私たち宗教人たちは国民の一人として韓国政府の立場(北朝鮮が非核化に対する真摯な姿勢を見せなければ食料を支援することはできない)を十分に理解致しますが、命を生かすことはこの世の何よりも尊いことであり、私たち人類の良心上、当然の義務でもあるために、餓死の危機にある北朝鮮の同胞に人道的立場で食糧を支援することが急がれるのでございます。そのうえ、北朝鮮の住民たちは私たちとは血を分けた同胞です。彼らの生命を生かすことはいかなる政治的理由よりも優先されなくてはなりません。北朝鮮に食料を支援することは北朝鮮住民の生命を生かすことと同時に、韓半島の和解と平和を定着させることであり、民族統一を早める道です。食料支援を通じて北朝鮮住民の心を掴むことは、統一を準備する第一歩になると考えております。

この呼訴文の内容にもありますが、南の宗教人たちにとって命を生かすことは何にも勝る重要な責務です。そして南の宗教人たちは北朝鮮の住民たちを飢えと寒さから救うことが彼らの心を開く鍵になると信じております。

2011年は北朝鮮の食糧難が1990年代中盤に数百万名が餓死した「苦難の行軍」の時期よりも更に深刻で、「苦難の超強行軍」の時期と呼ばれるほどです。

この内容は去年11月25日に発表されたWFP(世界食料計画)とFAO(食料農業機構)の北朝鮮の食料収穫量共同調査報告書によく現れています。この調査は去年の10月初旬に北朝鮮の9ヶ道、29ヶ郡で10日間行われましたが、報告書によると、北朝鮮の2011年食料生産量は精製する前を基準に5百50万トン、精製した穀物を基準に4百66万トンで、2010年に比べ、8.5%増加が予想されますが、それでも必要量に対し74万トンが不足しており、不足分74万トン中、北朝鮮政府が32万5千トンを入力するとしても、まだ約42万トンが不足し、約300万名分の食料支援が必要であり、特に子供たちの栄養失調が憂慮されるといいます。また報告書は2011年5ヶ月の間、公式的配給は1人当たり1日要求量の3分の1水準にすぎない200gしか支給されなかったと公表しました。

拙僧が北朝鮮の食料難について特に注目する点は、北朝鮮人口の 1/4 にいたる 610 万名の脆弱階層です。脆弱階層は 5 歳未満の乳幼児と幼稚園生、小学生、中学生、妊婦、授乳婦、独居老人、扶養家族が多い家族、長期療養患者、障害者などを指し、畑仕事や商業活動に参加して生存水準の食料を調達できる一般住民に比べ、彼らは配給以外の食料調達が不可能であるため、食料難の影響を直接的に受ける階層です。そのうえ彼らの問題が深刻な点は、400 万名が食料需給がもっとも不安定な北朝鮮北東部地域に分布しているということです。

このように北朝鮮の脆弱階層に対する支援は緊急の課題です。拙僧は私たち宗教界がこの脆弱階層に対する支援を特化する必要があると考えます。宗教は体制と理念、党派的理解からは自由な立場です。宗教は第 1 の対社会的責務が木魚であり塩の役割であり、平和と正義、人道主義は全ての宗教が追求する絶対価値です。そして宗教団体はすでに社会福祉事業と社会奉仕活動に経験とノウハウを十分に蓄積しており、単位事業の持続性を保障できる安定的財政と運営体系を持っています。

ただし、北朝鮮の脆弱階層に対する人道的支援には、3 つの原則が守られなければなりません。

第一に、北核問題と人道的支援事業は徹底して分離しなければなりません。

第二に、宗教の拡大と改革、開放の誘導という意図があってはなりません。

第三に、成果志向の短期的事業ではなく、持続性が保証される事業が推進されなければなりません。

去年 5 月、南にて「宗教界、統一準備をどうするのか」というテーマで開かれたセミナーの場で南の初代人権大使を歴任したパク・キョンソ梨花女子大学名誉教授が「宗教だけが疎通の突破口を開くことができる」とし、「宗教人が対立する当事者間に堂々と立ち(Between)、そして現実には振り回されたり、立ち止まったりすることなく、それを超克(Beyond)する知恵と勇気を発揮する『Between and Beyond』思考を勧める。」とおっしゃったことがあります。

なにとぞ、韓半島の平和を願う宗教人であるならば、誰でも『Between and Beyond』の思考を持って閉塞する状況を打開するのに大きな役割を担って下さることを期待しつつ、発表を終えさせていただきたいと思えます。ご清聴ありがとうございました。